

# Yaomania

“Yao”の「見たい」「行きたい」「ほしい」「知りたい」がいっぱい! ヤオマニア 2020 Vol.29

## 特集 八尾空港

冬号

◆八尾の「ものづくり」の現場から

◆河内木綿 復活した伝統工芸

◆未来を担う人材を 大阪経済法科大学

八尾の空から



八尾空港上空を飛ぶセスナ機。(航空カメラマン、阿施光南撮影)





70年目の  
自社ブランド開発で  
新たなフィールドへ

多葉刷子工業所

MONO ZUKURI

## 歯ブラシ製造で人々の健康を陰で支え続ける

歯ブラシの生産量日本一の八尾市、その地元で歯ブラシ製造一筋に歩んできた多葉刷子工業所は、令和元年、創業70周年を迎えた。この節目の年に、大阪府や大阪商工会議所連合会などが進める「大阪ものづくり優良企業賞」を受賞。昭和24年以來、OEM（納入先ブランド製品製造）で、祖父の代からコソコソと積み上げてきた技術と品質管理が認められたのだ。

歯ブラシは小さな商品だが、人にとって健康生活の第一歩であるオーラルケアを支える重要なもの。人の口に入れるものだけに、口の中で違和感のない、毎日快適にブラッシングできる、より良い製品が求められる。写真でもお分かりのように現在は製造現場も自動化が進んでいるが、最終的には、やはり経験と技能によって、価値ある製品が生まれていく。

その多葉刷子工業所が、70年目にして、はじめて自社のブランド商品を開発。それは何と「小型犬用の歯ブラシ」。かねがね「自社ブランドを」と考えていた多葉宣宏社長にとっては念願の新商品。なぜ犬にも歯ブラシが必要なのか。犬の口内は人間と異なりアルカリ性なので、虫歯にならない代わりに歯周病になりやすいからだという。開発には獣医さんのアドバイスを得ながらの試行錯誤の連続だった。

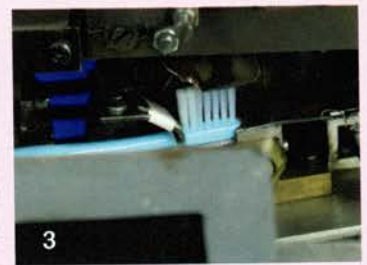
最大の特徴は、毛の素材にヤギや馬などの天然毛を採用したこと。従来の人用で使用するナイロンでは犬にとって固すぎて歯磨きを嫌がり、ストレスの原因に。しかし、細いヤギや馬の毛を植え付けるのは至難の業。しかも一つの穴への植毛数はナイロンの5倍から10倍必要となる。これらの課題を、蓄積してきた技と丁寧な作業によって一つひとつ克服していった。

開発を振り返って、多葉社長は、「この自社ブランドの実現で、改めて自社の技術への誇りと、新たな未来が見えてきた」と今後への意欲を語った。



多葉宣宏社長

犬の歯周病を初めて知ったのは「義父母の飼っていた愛犬が歯周病になり、全身麻酔された一挙に数本の歯を抜かれたこと」からだ。と多葉社長。人のお口のケア商品である歯ブラシを長年作り続けてきた者として、「家族の一員である、愛犬の健康に貢献できる商品を」との思いが、自社ブランドを開発するきっかけだったという。愛犬が健康で長生きして、気持ちよく歯を磨けるよう、飼い主向けに磨き方の動画をネットに掲載するなど、啓発にも余念がない。



あなたの大切な歯を守る歯ブラシが  
作られていく製造現場（写真1～4）

1. 1本1本丁寧に検品していく。
2. ドイツ・ザホランスキー社製のコンピュータ制御による植毛ライン。
3. 植毛後の歯ブラシの毛先をカットし、毛先を揃えたり丸めたりする毛切り工程。
4. 手際良く歯ブラシの元を植毛機に補充していく。

◀初めて開発した自社ブランド商品「ミガケンデ」、日本初の小型犬用歯ブラシだ。植毛の材質が違うため、新たな技術や製造工程が必要となった。



### 有限会社多葉刷子工業所

八尾市久宝寺4-2-38  
TEL: 072-922-3429  
<http://tababrush.com>